



世界への
プレゼントに
なろう

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

WEEKLY REPORT

No.2816 2015年9月14日

事務所 ひたちなか市海門町二丁目 8-13 ひたちなか商工会議所那珂湊支所内
 TEL.029(263)7811 例会日 毎週月曜日 12:30
 FAX.029(263)6859 例会場 常陽銀行湊支店二階会議室
 URL : <http://www.nakaminato-rc.com/>

★点 鐘

卯野福弥会長

ロータリーソング「奉仕の理想」

司会 海後宗郷副SAA

★出席報告

榎木直行委員長

会 員 数	32名
出 席 者	18名
欠 席 者	12名
出席免除者	2名
マークアップ	9名
出 席 率	90.0%

★会長挨拶

卯野福弥会長

このたび台風18号の影響による記録的大雨で関東・東北、特に常総市では鬼怒川の堤防決壊により未曾有の惨事をもたらしました。行方不明者の捜索も連日行われていますが、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、来週の月曜日は「敬老の日」です。先日、2014年における日本の平均寿命は、男性が80.50歳、女性が86.83歳となったことが報道されました。

サムエル・ウルマンの詩に「青春」というのがあります。「青春とはある時期のことではなく心のあり方」で始まるこの詩は「人は歳月を重ねたから老いるのではない。理想を失うときに老いるのである。……歳月は皮膚にしわを刻むが、情熱の消滅は魂にしわを刻む」と続いています。さらに「人はその信念に比例して若くあり、疑いに比例して老いる。自信や希望に比例して若くあり、恐れや絶望に比例して老いる。」

敬老会の会場では、若い日の思い出に花が咲くことでしょうか。人生80年時代は心の若さこそ大切であることを、ウルマンの詩は教えているように思います。私たちも、健康に留意していくと同時に「心の若さ」をもつよう心がけていきたいものです。

★幹事報告

遊座文郎幹事

① ホームページについて

今年度は、昨年度に引き続きホームページのリニューアルをする予定です。週報、年間のスケジュール、委員会構成などを追加し、充実したホームページを作成していくつもりです。近日中にできあがりますので、そのときにはお知らせいたします。

② ガバナー公式訪問について

11月16日(月)は、倉沢修市ガバナーの公式訪問日です。クラブ現況報告書の原稿締め切りは、今月いっぱいとなっていますので、未だ提出されていない方は提出方よろしくお願ひいたします。

③ 会員増強について

現在、6名の方が候補に挙がっていますが、会員増強については60周年記念式典を終えてから本格的に始めたいと思います。

④ 「ロータリー情報館」について

藤咲久光会員よる胴体力体操の様子を月信の中にある「ロータリー情報館」に金子貞夫会員が投稿しますので、後でご覧になって下さい。

★ 創立60周年記念行事

創立60周年記念事業報告

磯崎 孝実行委員長



平成26年12月5日 第1回実行委員会

～平成27年9月5日 第9回実行委員会

平成27年9月23日(水) 第10回実行委員会(予定)

平成27年9月28日(月) 第11回実行委員会(予定)

会 長 卯野福弥
実行委員長 磯崎 孝
副実行委員長 奥山正紀
幹 事 遊座文郎
国際奉仕委員長 菊池眞一郎

1. 記念行事委員会

委員長 安達良司・副委員長 常盤昌敬
電波時計の寄贈 湊公園

設置 9月18日(金) 予定

除幕式10月5日(月) 14:30～予定

2. 記念式典委員会

委員長 川崎通夫・副委員長 黒澤利勝
水戸プラザホテル10月5日(金) 18:00～
式典来賓 倉沢修市ガバナー
清水貞一ガバナー補佐

蔡定昌基隆扶輪社社長

本間源基ひたちなか市長

鈴木誉志男

ひたちなか商工会議所会頭

懇親会アトラクション

津軽三味線 芝間美喜夫先生

(他1名)

3. 総務・記念誌委員会

委員長 鹿志村吉信・副委員長 金子貞夫

招待状名簿作成 招待状作成 出席者名簿作成

記念誌編集・総括

4. 台湾基隆クラブ担当委員会

委員長 菊池眞一郎・副委員長 根本 隆

台湾基隆クラブ来組メンバーの確認

メンバーズプレート作成

両国記念バッチ注文

5. その他

★ 卓 話

「ロータリーの友月間について」

金子貞夫委員長



9月は「ロータリーの友」月間です。初めて誕生した月間ですので、それについてお話しします。

「ロータリーの友」はロータリーの機関紙であり情報誌であります。皆さんも既にご承知の通りロータリーアンには3つの義務、その一つは「ロータリーの友」の購読があります。「ロータリーの友」は日本におけるロータリーの機関紙で、国際ロータリー(RI)の認可を受け、ロータリーワールド・マガジン・プレス(THE ROTARIANとロータリー地域雑誌の総称)の一員として発行されているロータリーの地域雑誌であります。

地域雑誌としての「友」は、ロータリーアンがロータリー・ライフを深めるためにも、またクラブがRIと直結しているという認識のためにも必要な媒体であると言う事をまずご理解頂きたいと思ひます。「ロータリーの友」はロータリーについての最大の情報誌でもあります。RI

の最新情報や世界におけるロータリーの状況やロータリー活動について最新情報を提供しています。また編集に際しては日本全国のロータリアンが情報や思いを共有できるようなより身近でより親しまれる様に編集されております。

1月から「ロータリーの友」が電子化されました、この電子化により何時でも、何処でも「ロータリーの友」を見る事が出来て身近になりました。「ロータリーの友」にアクセスしてページをめくりお読み頂き、ロータリーを学んで下さい。

* ロータリー雑誌のいろいろ

ロータリアンに有効な「ロータリー情報」の活用の仕方は

世界の情報は=R I 公式機関紙

THE ROTARIAN

日本の情報は=ロータリーの友

地区の情報は=ガバナー月信

クラブの情報は=クラブ週報

*日本の公式機関紙「ロータリーの友」について

「ロータリーの友」は1953年(昭和28年)1月に初刊されました。創刊当初は3,300部、52年後の2005年7月号は11万5千部で通巻631号になりました。そして2013年7月号では9万5,500部になりました。2014年3月号は通巻735号となりました。

*ロータリーの友の由来

初刊に際し機関紙の名称がいろいろと議論され、最終的には「ロータリーの友」と命名されました。この名称の由来は当時の女性雑誌「主婦の友」にあやかって命名されたと言われますが、別説として「ビールの友」からのヒントとも囁かれています。この方が親しみやすいと考えました。

*「ロータリーの友」編集方針

公式地域雑誌は「手続要覧」にあるようにその雑誌を発行している地区のガバナーが任命した委員会が直接監督する事になっています。「ロータリーの友委員会」の委員長は地区ガバナーに対して「友」運営の一切についての責任を負っています。「ロータリーの友」は日本ロータリー34地区のロータリークラブ会員ための公式地域雑誌として、国内の地区、ロータリークラブ及び会員の活動状況を紹介して親睦を図り、また、国内外における各種ロータリー情報を掲載することによりロータリー精神の普及、ロータリー活動の発展に寄与することをその目的としています。

投稿原稿は紙面の都合上、総て掲載すること

はできません。また、制限字数を超えるものは短縮して掲載します。投稿規定は各欄を初め、あるいは末尾に掲載してありますので多くの会員の投稿をお待ちしています。また、他人を誹謗する記事や公序良俗に反する記事は掲載できません。総ての投稿原稿の取り扱い常任委員会、編集部一任となっています。

《過去の雑誌月間より》

○『ロータリーの友』の変遷 創刊まで

1952(昭和27)年4月25日、大阪市で開かれた地区大会では、次年度(1952-53年度)から日本が二つの地区に分割されることが決定していました。それまで一つの地区としてまとまっていた日本のロータリアンが2地区に分かれるわけですから、寂しさと期待の入り交じった雰囲気が当時の人たちにはあったようです。そのようなロータリアンの気持ちから、2地区になってからも連絡を緊密にするための共通の機関誌の創刊が企画されました。

第1回の準備会は大阪で開かれました。大阪クラブの星野行則氏がガバナーであったこともあり、同クラブの露口四郎氏が幹事役となって開催されました。東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブ代表者が出席しました。共通の雑誌ということでしたが、東と西では雑誌に対するイメージがかなり違い違っていました。西の星野氏は謄写版刷りの簡単なものでよいから早くという意見でしたし、東では謄写版では手軽すぎて恒久性がない、はじめからある程度きちんとしたものを望むという考えでした。最初の会合では具体案の作成までには至りませんでした。

第2回の準備会が岐阜クラブの遠藤健三氏の世話で、1952年8月16日、岐阜・長良川畔の大竹旅館で開かれました。この時は、第1回の準備会よりも具体的になり、議論も沸騰したようです。ここで下記の内容が決定しました。

1. 編集委員は合議制とする。
2. 東京にて発行する。
3. 定価50円とするが、広告をとって100円の内容のある雑誌とする。
4. 名称は「ロータリーの友」とする。
5. 横書きとする(横書き、縦書きで意見が分かれ、各クラブの意向をうかがうため一般投票を行ったところ、2対1の割合で横書きが採用されることになった)。
6. 創刊は1953年1月号とする。

○『ロータリーの友』の名称

第2回準備会で、投票によって遠藤健三氏提案の『ロータリーの友』に決定しました。

この名称に対し、柏原孫左衛門氏がおつまみの「ビール」の友からヒントを得たのではと発言、爆笑となったそうですが、遠藤氏自身後日談で『主婦の友』からヒントを得たと述べています。

○ 広告の創刊号から

定価に関して東西が対立し、遠藤氏が仲裁案として50円案を出しました。雑誌の体裁としては東の活版案になったわけですが、活版で作成すると原価が93円75銭かかり、予算が不足することははっきりしていました。遠藤氏は仲裁案を出すときから広告を取って補てんしなければならないと考えていたようです。

定価100円は1962年12月号まで続き、その後1974年12月号まで定価110円が続きました。しかし、印刷代諸物価の値上がりにより1975年1月号から定価200円になり現在に至っています。

現在でも『友』にとって広告は大事な収入源で、1975年以来の200円を維持していくためにも、この広告収入が一役かっています。

○ その後の『友』の変遷

1953年の創刊当初は、横組みでのスタートでしたが、その後、歌壇など横組みでは具合の悪い記事が出はじめ、これらを縦組みとしたので、縦組み・横組みが交ざった雑誌となりました。1972年1月から従来の形式を一変し、縦組みと横組みに分けた現在の姿になっています。

1977年クラブ定款第10条（現14条）の改正に伴い、公式地域雑誌の規定が設けられ、『ロータリーの友』は、1980年7月から公式地域雑誌（現、ロータリー地域雑誌）となりました。『友』の記事はモノクロのみでしたが、1986年3月号から「ロータリー・アット・ワーク」（横組み写真ページ）トップの取材ページをカラーに、縦組みと横組みの巻頭各8ページを2色刷りにしました。同年12月号からカラーは投稿ページを加え8ページとなりました。

1994年3月号から、カラーページを8～16ページとし、「ロータリー・アット・ワーク」のすべての写真をカラーにするとともに、1994～95年度分から「地区大会略報」「インターアクト・ローターアクト・交換学生」もカラーとしました。1988年11月号から「ガバナーのページ」を、そして翌年には「ガバナー座談会」（4～6ページ）も2色刷りにし、2色のページを大幅に増やしました。

2007年1月から、従来より白い用紙に変更して、カラー写真がより鮮やかに、年齢の高い会員の方のためにコントラストをつけて文字が読みやすいように工夫をしました。

○ 創刊50年で、新しい一歩を踏み出す

1953年1月に創刊した『ロータリーの友』は、2003年1月で創刊50周年になりました。創刊50周年を迎えるに当たり、その年度初めにあたる2002年7月号からサイズならびに製本方法を変更しました。さらに投稿欄など内容も一部変更して、新しい時代に合った『ロータリーの友』を目指して第一歩を踏み出しました。

新しい『ロータリーの友』は、B5判をA4変型判（縦280ミリ×横210ミリ）に変更、製本方法も無線綴じから中綴じに変更しました。同号からは本格的にコンピューター編集を採用、ロータリーの友事務所内で原稿整理から段組まで一切の作業ができるようになりました。用紙は、写真中心のページも、文字中心のページもきれいに印刷できる用紙に変更しました。

その後もすべてをカラー印刷にしたり、用紙をさらに変更したり、さらには、新しい欄をつくったりして、より親しみやすい『友』になるよう努めています。

（以下省略）

倉沢修市ガバナー 公式訪問日程

11月16日

初心にかえり新たな一歩を



「出席はロータリアンの3大義務の1つです」